

別府大学 学士課程教育に関する3つのポリシー

別府大学は、学士課程教育の充実、教育の質の維持・向上を目的として、建学の精神や教育目的を基礎に、各学部・学科の「3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）」を定めています。別府大学は、この方針に基づいて教育の充実を図るとともに、学生の学びの内容と水準を維持・向上させていきます。

文学部

国際言語・文化学科

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・学修成果の目標）

国際言語・文化学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。
- (2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。
- (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

<社会的意義> 文学や芸術のもつ社会的な意義や、文学や芸術を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力> 文学や芸術の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に日本語・日本文学コースは日本語力及び文章力、英語・英米文学コースは英語力及び文章力、芸術表現コースは創造力及び作品制作能力を身につけている。

<専門に関する能力>

(1) 日本語・日本文学コース

- ①上代から近現代にいたる日本文学の歴史、外国文学の影響、表現技法の特色などを古典や名著を精読して理解し、作家・作品研究の基礎を身につけている。
- ②日本語について音声や語彙、文法、歴史等に関する知識を多角的に修得し、日本語研究の基礎能力を身につけている。

(2) 英語・英米文学コース

- ①英文を正確に記述し、会話できる能力を身につけている。
- ②英語について音声や語彙、文法、歴史等に関する知識を多角的に修得し、英語研究の基礎知識を身につけている。
- ③英米文学作品を精読し、英米文学の歴史、文化、作家等を深く理解し、考察できる。

(3) 芸術表現コース

- ①芸術表現、言語や文化についての幅広い知識を修得し、芸術的思考と文化の理解および分析能力を身につけている。
- ②マンガ、デザイン、映像・アニメーション、絵画の作品を創作する知識・技能を修得する。

(4) コース共通

- ①4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究や制作を行い、論文や作品にまとめることができる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際言語・文化学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果（到達目標）を適切に分類した科目区分（科目群）を設け、その科目区分（科目群）に応じた科目を設定することを基本とする。各コースで必ず学習すべき内容を扱う科目はコース必修とし、科目の内容に応じて講義＋演習・実験・実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養科目

ディプロマ・ポリシーの「教養」に示された学修成果（到達目標）に対応して、以下の科目区分と科目を置く。

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力など基礎的素養を培うために必要な導入教育を行い、本学の建学の精神、教育方針等を学び、学生の学習意欲を高めるため、1年次に科目区分「基礎ゼミ」を置き、その内容に適した科目を置く。
- (2) 特定の主題について、一つの専門分野に偏らずに、多角的、総合的、複合的に思考する能力を養うため科目区分「学際科目」を置き、それに適した科目を置く。
- (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な教養を身につけ、情報処理や英語のリテラシーを身につけるための科目区分を設け、それぞれその内容に適した科目を置く。

2. 専門科目

ディプロマ・ポリシーの「専門力」に示された学修成果（到達目標）に対応して、以下の科目群を置き、それぞれの科目群の要請する内容を偏りなく包含する諸科目を設定する。なお、文学、芸術を学修することの社会的意義に関しては教養科目の「基礎演習」で扱い、職業生活で評価される能力に関しては全ての専門科目で分担して扱う。

(1) 発展演習・専門演習・卒業演習

教養科目の「基礎演習」と一貫する科目群として以下の少人数演習を置く。

- ①専門の基礎的な知識・能力を高めるための科目として2年次に「発展演習」を置く。
- ②専門の知識や考え方を深めるとともに、課題の探求力、発表能力などを高め、卒業演習につなげるための科目として3年次に「専門演習」を置く。
- ③テーマを絞って専門の学修を深め、4年間の集大成となる卒業論文（卒業制作）又は卒業研究を完成させるための科目として「卒業演習」を置く。

(2) 学部共通専門科目

文学部各学科共通に履修できる人文系、社会科学系、芸術系の入門的・概論的な知識・技能を修得するための科目群を置く。

(3) 学科専門基礎科目

日本語・日本文学コース、英語・英米文学コース、芸術表現コースの基礎的な知識・技能を修得するための科目群を、各コース共通に幅広く履修できるように学科専門基礎科目（コース共通科目）として置く。

(4) コース専門科目

日本語・日本文学コース、英語・英米文学コース、芸術表現コースの学修のための専門的な知識・技能を修得するための科目群を下記のコース専門科目として置く。

①日本語・日本文学コースのコース専門科目

- 1) 上代から近現代にいたる日本文学の歴史、外国文学の影響、表現技法の特色などを古典や名著を精読して理解し、作家・作品研究の基礎を身につけるための科目群。
- 2) 日本語について音声や語彙、文法、歴史等に関する知識を多角的に修得し、日本語研究の基礎能力を身につけるための科目群

②英語・英米文学コースのコース専門科目

- 1) 英文を正確に記述し、会話できる能力を身につけるための科目群
- 2) 英語について音声や語彙、文法、歴史などに関する知識を多角的に修得し、英語研究の基礎知識を身につけるための科目群
- 3) 英米文学作品を精読し、英米文学の歴史、文化、作家等を深く理解し、考察する能力を身につけるための科目群

③芸術表現コースのコース専門科目

- 1) 芸術表現、言語や文化についての幅広い知識を修得し、芸術的思考と文化の理解および分析能力を身につけるための科目群
- 2) マンガ、デザイン、映像・アニメーション、絵画の作品を創作する知識・技能を修得するための科目群

(5) 卒業論文・卒業制作・卒業研究

4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究や制作を行い、論文や作品にまとめるための科目群

3. 専門科目、教養科目の共通事項

(1) 授業の内容・方法

- ①ディプロマ・ポリシーの「汎用力」に示された学修成果（到達目標）については、それを計画的に身につけることができるよう、専門科目、教養科目の全科目が学修成果（到達目標）を分担し合い、授業内容・方法を工夫する。

②能動的学修、体験的学習、授業時間外学習を充実させるなど、大学教育の質的転換に向けた授業内容・方法を重視し、取り入れる。

(2) 初年次教育

多様な新入生全員が、学習意欲を沸き立たせ、自ら人間関係を築き、学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように、オリエンテーションや導入演習も含めて初年次の配当科目、授業内容・方法を工夫する。

(3) キャリア教育

教養科目では、学部・学科共通のキャリア関連科目を置く。専門科目ではそれぞれのコースに応じ、英語能力、日本語文章力、創作力など社会で評価される実践的な知識、技能を修得するよう授業内容・方法を工夫する。

(4) 資格科目

中学校教諭一種免許状（国語・英語・美術）、高等学校教諭一種免許状（国語・英語・美術）、司書、司書教諭、学芸員、日本語教員の免許・資格を取得するための科目を設定する。

(5) 学修成果（到達目標）の達成度の評価とカリキュラムの改善

教員による達成度評価、学生自身による達成度評価のほか、卒業生調査などによって社会からの外部評価を適宜加え、カリキュラム全体の達成度評価と課題の明確化、改善案の策定などを行う。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

○学科教育の特色と育成する人材像

国際言語・文化学科には、「日本語・日本文学コース」、「英語・英米文学コース」、「芸術表現コース」という３つのコースがあり、学生は３つのコースから自らの関心に基づいて自由にコースを選び、そして他のコースをも副コースとして選択して学修することができます。また本学科では、国語、英語、美術の教職免許と、図書館司書・学芸員の資格が取得できます。

本学科は、文学・言語・芸術の分野について十分な専門的知識と技能を備え、広い視野から諸問題に対応できる人材、教員や図書館司書のような、将来地域教育・学術文化を担う人材、あるいは将来研究者を目指す人材を育成することを目的とします。

このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。

○入学者に求める能力・資質は何か

- 国語、英語、美術のいずれかについて基礎的な知識・技能を修得していること
- 自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること
- 自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること
- 言語・文学・美術に対する関心と意欲を有していること

○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか

- 国語、英語、美術のいずれかに関する知識・技能の力と、それを活用していく思考力・判断力・表現力を、各選抜区分における学力・実技審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 言語・文学・美術に対する関心と意欲を、各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。

各選抜区分で次のとおり「学力の 3 要素」を評価します。					
区 分	選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	言語・文学・美術に対する関心と意欲
学 校 推 薦 型 選 抜	指定校推薦				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	推薦 1 期・2 期				
	小論文（芸術実技含む）	○	○		○
	面接		○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	スポーツ・文化推薦				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○

	推薦書・自己申告書		○	○	○
総合型選抜	総合型選抜1期・2期				
	課題	○	○		○
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	エントリーシート		○	○	○
一般選抜	A日程（1・2）				
	学力審査（芸術実技含む）	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	B日程				
	学力審査（芸術実技含む）	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	C日程				
	小論文（芸術実技含む）	○	○		○
	面接		○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	D日程				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	共通テスト利用1期・2期・3期				
	大学入学共通テスト	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○

史学・文化財学科

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・学修成果の目標）

史学・文化財学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。
- (2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。
- (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

<社会的意義> 歴史学、文化財科学のもつ社会的な意義や、歴史学、文化財学を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力> 歴史学、文化財学の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に資料を収集し分析する能力、観察力、洞察力、判断力、表現力、実践力を身につけている。

<専門に関する能力>

(1) 日本史・アーカイブズコース

- ①日本史・アーカイブズ学の学修に必要な基礎的な知識を修得している。
- ②日本史の専門領域に関する深い知識を修め、歴史についての多角的な理解、洞察力を身につけている。

(2) 世界史コース

- ①世界史の学修に必要な基礎的な知識を修得している。
- ②世界史の専門領域に関する深い知識を修め、歴史についての多角的な理解、洞察力を身につけている。

(3) 考古学・文化財科学コース

①考古学・文化財科学の学修に必要な基礎的な知識を修得している。

②考古学・文化財科学の専門領域に関する深い知識を修め、調査や発掘、文化財の保存修復や科学分析等の技能を体験的に修得している。

(4) コース共通

①4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究を行い、論文にまとめることができる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

史学・文化財学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果（到達目標）を適切に分類した科目区分（科目群）を設け、その科目区分（科目群）に応じた科目を設定することを基本とする。各コースで必ず学習すべき内容を扱う科目はコース必修とし、科目の内容に応じて講義＋演習・実験・実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養科目

ディプロマ・ポリシーの「教養」に示された学修成果（到達目標）に対応して、以下の科目区分と科目を置く。

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力など基礎的素養を培うために必要な導入教育を行い、本学の建学の精神、教育方針等を学び、学生の学習意欲を高めるため、1年次に科目区分「基礎ゼミ」を置き、その内容に適した科目を置く。
- (2) 特定の主題について、一つの専門分野に偏らずに、多角的、総合的、複合的に思考する能力を養うため科目区分「学際科目」を置き、それに適した科目を置く。
- (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な教養を身につけ、情報処理や英語のリテラシーを身につけるための科目区分を設け、それぞれその内容に適した科目を置く。

2. 専門科目

ディプロマ・ポリシーの「専門力」に示された学修成果（到達目標）に対応して、以下の科目群を置き、それぞれの科目群の要請する内容を偏りなく包含する諸科目を設定する。なお、歴史学、文化財学を学修することの社会的意義に関しては教養科目の「基礎演習」で扱い、職業生活で評価される能力に関しては全ての専門科目で分担して扱う。

(1) 発展演習・専門演習・卒業演習

教養科目の「基礎ゼミ」と一貫する科目群として以下の少人数ゼミを置く。

- ①専門の基礎的な知識・能力を高めるための科目として2年次に「発展演習」を置く。
- ②専門の知識や考え方を深めるとともに、課題の探求力、発表能力などを高め、卒業演習につなげるための科目として3年次に「専門演習」を置く。
- ③テーマを絞って専門の学修を深め、4年間の集大成となる卒業論文（卒業制作）又は卒業研究を完成させるための科目として「卒業演習」を置く。

(2) 学部共通専門科目

文学部各学科共通に履修できる人文系、社会科学系、芸術系の入門的・概論的な知識、技能を修得するための科目群を置く。

(3) 学科専門基礎科目

日本史・アーカイブズコース、世界史コース、考古学・文化財科学コースの基礎的な知識・技能を修得するための科目群を、各コース共通に幅広く履修できるように学科専門基礎科目として置く。

(4) コース専門科目

日本史・アーカイブズコース、世界史コース、考古学・文化財科学コースの学修のための専門的な知識・技能を修得するための科目群を次のコース専門科目として置く。

①日本史・アーカイブズコース

日本史の専門領域に関する知識を深め、歴史についての多角的な理解、洞察力を身につけるための科目群

②世界史コース

世界史の専門領域に関する知識を深め、歴史についての多角的な理解、洞察力を身につけるための科目群

③考古学・文化財科学コース

考古学・文化財科学の専門領域に関する知識を深め、調査や発掘、文化財の保存修復や科学分析等の技能を体験的に身につけるための科目群

(5) 卒業論文・卒業研究

4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究を行い、論文にまとめるための科目群

3. 専門科目、教養科目の共通事項

(1) 授業の内容・方法

①ディプロマ・ポリシーの「汎用力」に示された学修成果（到達目標）については、それを計画的に身につけることができるよう、専門科目、教養科目の全科目が学修成果（到達目標）を分担し合い、授業内容・方法を工夫する。

②能動的学修、体験的学習、授業時間外学習を充実させるなど、大学教育の質的転換に向けた授業内容・方法を重視し、取り入れる。

(2) 初年次教育

多様な新入生全員が、学習意欲を沸き立たせ、自ら人間関係を築き、学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように、オリエンテーションや導入演習も含めて初年次の配当科目、授業内容・方法を工夫する。

(3) キャリア教育

教養科目では、学部・学科共通のキャリア関連科目を置く。専門科目では調査力、協働能力、プレゼン力など社会で評価される実践的な知識、技能を修得するよう授業内容・方法を工夫する。

(4) 資格科目

中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）、文書館専門職（アーキビスト）、司書、司書教諭、学芸員の免許・資格を取得するための科目を設定する。

(5) 学修成果（到達目標）の達成度の評価とカリキュラムの改善

教員による達成度評価、学生自身による達成度評価のほか、卒業生調査などによって社会からの外部評価を適宜加え、カリキュラム全体の達成度評価と課題の明確化、改善案の策定などを行う。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

○学科教育の特色と育成する人材像

史学・文化財学科には、「日本史・アーカイブズコース」「世界史コース」「考古学・文化財科学コース」という3つのコースがあり、学生はこの3つのコースから自らの興味・関心に基づいて主コースを選択します。さらに、主コース以外にも興味・関心のあるコースを副コースとして選択して学修することができるため、すべての領域にわたって複数のコースの専門的学問を修得することができます。また、本学科では、中学校社会・高等学校地理歴史及び公民の教職免許、学芸員資格、司書資格、司書教諭資格、文書館専門職（アーキビスト）修了証を取得できます。史学・文化財学科では、歴史や文化財について広く深く学び、学習した知識・技能を応用して社会に貢献できる人材、また本学科で取得可能な上記の諸資格を活かしてそれぞれの専門分野で活躍できる人材を育成することを目指します。

このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。

○入学者に求める能力・資質は何か

- 歴史や地理についての基礎的な知識・技能を修得していること
- 自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること
- 自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること
- 歴史への深い関心を有していること

○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか

- 世界史・日本史・地理に関する知識・技能の力、及びそれを活用して自ら積極的に考察しそれを分かりやすく伝えることができる思考力・判断力・表現力を、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 歴史への深い関心を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。

各選抜区分で次のとおり「学力の 3 要素」を評価します。					
区 分	選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	歴史への深い関心
学校推薦型選抜	指定校推薦				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	推薦 1 期・2 期				
	小論文	○	○		○
	面接		○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	スポーツ・文化推薦				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	推薦書・自己申告書		○	○	○
総合型選抜	総合型選抜 1 期・2 期				
	課題	○	○		○
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	エントリーシート		○	○	○
一般選抜	A 日程（1・2）				
	学力審査	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	B 日程				
	学力審査	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	C 日程				

	小論文	○	○		○
	面接		○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	D日程				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	共通テスト利用1期・2期・3期				
	大学入学共通テスト	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○

人間関係学科

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・学修成果の目標）

人間関係学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。
- (2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。
- (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

＜社会的意義＞心理や福祉のもつ社会的な意義や、心理や福祉を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞心理や福祉の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特にコミュニケーション力、チームワーク力を身につけている。

＜専門に関する能力＞

- (1) 領域の選択に応じて、社会福祉・精神保健福祉、心理、教育・生涯スポーツの各専門分野の専門的な知識を修得し、現場での実践力を身につけている。
- (2) 4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究を行い、卒業論文にまとめることができる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間関係学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果（到達目標）を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基本とする。各コースで必ず学習すべき内容を扱う科目は領域必修とし、科目の内容に応じて講義＋演習・実験・実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。

教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養科目

ディプロマ・ポリシーの「教養」に示された学修成果（到達目標）に対応して、以下の科目区分と科目を置く。

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力など基礎的素養を培うために必要な導入教育を行い、本学の建学の精神、教育方針等を学び、学生の学習意欲を高めるため、1年次に科目区分「基礎ゼミ」を置き、その内容に適した科目を置く。
- (2) 特定の主題について、一つの専門分野に偏らずに、多角的、総合的、複合的に思考する能力を養うため科目区分「学際科目」を置き、それに適した科目を置く。
- (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な教養を身につけ、情報処理や英語のリテラシーを身につけるための科目区分を設け、それぞれその内容に適した科目を置く。

2. 専門科目

ディプロマ・ポリシーの「専門力」に示された学修成果（到達目標）に対応して、以下の科目区分を置き、それぞれの科目区分の要請する内容を偏りなく包含する諸科目を設定する。なお、社会福祉・精神保健福祉、心理、教育・生涯スポーツを学修することの社会的意義に関しては教養科目の「基礎演習」で扱い、職業生活で評価される能力に関しては全ての専門科目で分担して扱う。

(1) 発展演習・専門演習・卒業演習

教養科目の「基礎演習」と一貫する科目群として以下の少人数ゼミを置く。

- ①専門の基礎的な知識・能力を高めるための科目として2年次に「発展演習」を置く。
- ②専門の知識や考え方を深めるとともに、課題の探求力、発表能力などを高め、卒業演習につなげるための科目として3年次に「専門演習」を置く。
- ③テーマを絞って専門の学修を深め、4年間の集大成となる卒業論文を完成させるための科目として「卒業演習」を置く。

(2) 学部共通専門科目

文学部各学科共通に履修できる人文系、社会科学系、芸術系の入門的・概論的な知識、技能を修得するための科目区分を置く。

(3) 専門基礎科目

社会福祉・精神保健福祉、心理、教育・生涯スポーツの各領域の基礎的な知識、技能を修得するための科目区分として専門基礎科目を置く。

(4) 領域の専門科目

社会福祉・精神保健福祉、心理、教育・生涯スポーツの各分野の専門的な知識を修得し、現場での実践力を身につけるための科目区分として領域専門科目を置く。

(5) 卒業論文

4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究を行い、論文にまとめるための科目区分

3. 専門科目、教養科目の共通事項

(1) 授業の内容・方法

①ディプロマ・ポリシーの「汎用力」に示された学修成果（到達目標）については、それを計画的に身につけることができるよう、専門科目、教養科目の全科目が学修成果（到達目標）を分担し合い、授業内容・方法を工夫する。

②能動的学修、体験的学習、授業時間外学習を充実させるなど、大学教育の質的転換に向けた授業内容・方法を重視し、取り入れる。

(2) 初年次教育

多様な新入生全員が、学習意欲を沸き立たせ、自ら人間関係を築き、学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように、オリエンテーションや導入演習も含めて初年次の配当科目、授業内容・方法を工夫する。

(3) キャリア教育

教養科目では、学部・学科共通のキャリア関連科目を置く。専門科目では社会福祉、精神保健福祉、心理、教育・生涯スポーツの現場で評価される実践的な知識、技能を修得するよう授業内容・方法を工夫する。

(4) 資格科目

認定心理士、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を取得するための科目の他に、高等学校教諭一種免許状（公民）、司書、司書教諭の免許・資格を取得するための科目を設定する。

(5) 学修成果（到達目標）の達成度の評価とカリキュラムの改善

教員による達成度評価、学生自身による達成度評価のほか、卒業生調査などによって社会からの外部評価を適宜加え、カリキュラム全体の達成度評価と課題の明確化、改善案の策定などを行う。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

○学科教育の特色と養成する人材像

人間関係学科では、社会福祉、心理、教育、生涯スポーツ分野に関する「社会福祉領域」、

「心理領域」、「教育・生涯スポーツ領域」において、学際的視点に立ち、これらの諸問題を理論的かつ実践的に対応できる人材として社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師・認定心理士・教員などの資格を取得し、地域社会の活性化あるいは再生を担うことができる人材を養成することを目的とします。

このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標にむけて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。

○入学者に求める能力・資質は何か

- 社会福祉、心理、教育・生涯スポーツの各分野に関連する科目（国語および任意の 1 教科）についての基礎的知識・技能を修得しており、将来は人間関係学科で学んだことを用いて地域社会に貢献したいという強い意欲を持っていること
- 自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること
- 自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること
- 学校内外の活動に取り組む意欲と情熱を有していること

○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか

- 社会福祉、心理、生涯教育（スポーツ分野）の基礎となる科目（国語および任意の 1 教科）、および関連科目の知識・技能を活用し、入学後に自らの希望する専門性を十分に修得できるだけの思考力・判断力・表現力を持っているか、また、身につけた知識・技能を適切に表現できる国語力を持っているかを、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 主体的に学び、他者と協働して学問探求に臨む態度を、各選抜区分における口頭試問、面接、自己調査書、エントリーシート等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や、自分自身や周囲の人間関係に関する問題点について考え、理解や解決を模索したなどの豊かな人間経験を持ち、多様な学びをもとにさらに探求したいという意志を持っていることを、各選抜区分における口頭試問、面接、自己調査書、エントリーシート、課題等を基に測定・評価し、その結果を合否判定に用います。

各選抜区分で次のとおり「学力の 3 要素」を評価します。					
区 分	選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と	学校内外の活動に取り組む意欲と情熱

				協働して学 ぶ態度	
学校推薦型選抜	指定校推薦				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	推薦1期・2期				
	小論文	○	○		
	面接		○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	スポーツ・文化推薦				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	推薦書・自己申告 書		○	○	○
総合型選抜	総合型選抜1期・2期				
	課題	○	○		○
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	エントリーシート		○	○	○
一般選抜	A日程（1・2）				
	学力審査	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	B日程				
	学力審査	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	C日程				

	小論文	○	○		
	面接		○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	D日程				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	共通テスト利用1期・2期・3期				
	大学入学共通テスト	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○	○	○	○

食物栄養科学部
食物栄養学科

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・学修成果の目標）

食物栄養学科は、本学の定める課程を修了し、「教養力」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(栄養学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養力(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)

- (1) 大学教育に必要な基礎的素養を身につけ、また、本学の建学の理念や教育方針とともに、栄養学および健康科学を学修するための社会的意義を理解している。
- (2) 地域社会について、一つの分野に偏らずに、自然科学、社会科学および人文科学の融合した多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。
- (3) 人間と文化、社会科学の理解、自然科学と情報の理解に必要な教養を身につけ、また、国際理解のための外国語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 食物学や栄養学を学ぶための基盤領域の分野の学修を通じて、人間や社会、学問等

についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能)

＜社会的意義＞栄養学および健康科学のもつ社会的な意義や栄養学および健康科学を学ぶことによって人の生き方・暮らし方を選択する能力、社会の変化に対応して生活を組み立てる能力、次世代や他者の生活を支援する能力をもち、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養補給、食関連サービスのマネジメントを行うことができる能力や健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞栄養学および健康科学の専門教育を通して、特に食・栄養・健康にかかわる専門職業人として社会貢献する能力を身につけている。

- (1) 社会・環境と健康の関係、健康の概念、保健・医療・福祉・介護システムについて、基礎的な知識を身につけている。
- (2) 人体の構造と機能、環境変化に対する対応機能および疾病の成因、病態、診断、治療、生体防御について基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (3) 食品の栄養特性・物性と食品成分の人間生活・健康に与える影響および食品の加工・調理や食の安全性・衛生管理について理解し、それに関する実験の技能や調理・加工技術を身につけている。
- (4) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割およびエネルギーや栄養素の代謝の生理的意義について理解し、それに関する実験の技能を身につけている。
- (5) 発育・加齢や妊娠など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化と栄養アセスメント・栄養管理について理解し、それに関する実習技能を身につけている。
- (6) 健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報の収集・分析および栄養教育計画の作成・実施・評価について理解し、行動科学やカウンセリングに関する実習技能を身につけている。
- (7) 傷病者・クライアントの病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、栄養管理プロセス（栄養スクリーニング、栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリングと評価）について理解し、傷病者・クライアントの栄養指導に関する実習技能を身につけている。
- (8) 国や地域社会の健康・栄養問題や政策および活動、関連要因の情報収集・課題分析について学び、公衆栄養活動に計画立案・実施・評価等について理解し、それに関する実習・演習技能を身につけている。
- (9) 給食運営および物資や人材の資源の利用方法を学び、栄養面・衛生面・安全面・経営面の管理について理解し、総合的マネジメントに関する実習技能を身につけている。
- (10) 専門基礎分野と専門分野を横断した栄養学および健康科学について理解し、それらを

活用できる総合的な能力を身につけている。

- (11) 管理栄養士の活動の場での栄養評価・栄養管理を行うために必要な知識と技術および関連職種との連携を理解し、それらを行うために技術を臨地校外実習で身につけている。
- (12) 実践的な活動の場での課題の発見と解決を通して、卒後に栄養士・管理栄養士として必要な知識・技能を理解し、演習を通じて身につけている。

3. 汎用力(社会で活用できる汎用性のある能力)

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を修得している。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を修得している。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナーや振る舞いを身につけるとともに、豊かなコミュニケーション力を修得している。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を修得している。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

食物栄養学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学習成果(到達目標)を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、管理栄養士学校指定規則第2条および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」をもとに、学修成果(到達目標)を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基本とする。必ず学修すべき内容を扱う科目は必修とし、科目の内容に応じて講義、演習、実験、実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。

1. 教養科目

ディプロマ・ポリシーの「教養」に示された学修成果(到達目標)に対応して、以下の科目区分と科目を置く。

- (1) 大学教育に必要な基礎的素養を培うために必要な初年次教育を行い、また、食物学や栄養学を学修するための社会的意義を理解し、学修意欲を高めるため、科目区分「食物栄養科学基盤領域」を置き、その内容に適した科目を置く。
- (2) 地域社会について、一つの分野に偏らずに、自然科学、社会科学および人文科学の融合した多角的、総合的、複合的に思考する能力を養うために科目区分「地域社会総合領域」を置き、それに適した科目を置く。
- (3) 人間と文化、社会科学の理解、自然科学と情報の理解に必要な教養を身につけ、また、国際理解のための外国語の基本的なリテラシーを身につけるための科目区分を設け、それぞれの内容に適した科目を置く。

2. 専門科目

ディプロマ・ポリシーの「専門力」に示された学修成果(到達目標)に対応して、かつ栄養士法施行規則に定められたカリキュラム編成に準拠し、以下の科目区分を置き、それぞれの科目区分の要請する内容を偏りなく、包含する諸科目を設定する。

- (1) 社会・環境と健康の関係、健康の概念、保健・医療・福祉・介護システム
- (2) 人体の構造と機能、環境変化に対する対応機能および疾病の成因、病態、診断、治療、生体防御
- (3) 食品の栄養特性・物性と食品成分の人間生活・健康に与える影響および食品の加工・調理や食の安全性・衛生管理
- (4) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割およびエネルギーや栄養素の代謝の生理的意義
- (5) 発育・加齢や妊娠など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化と栄養アセスメント・栄養管理
- (6) 健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報の収集・分析および栄養教育計画の作成・実施・評価と行動科学・カウンセリング
- (7) 傷病者・クライアントの病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、栄養管理プロセス（栄養スクリーニング、栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリングと評価）に関する理解や傷病者・クライアントの栄養指導
- (8) 国や地域社会の健康・栄養問題や政策および活動、関連要因の情報収集・課題分析、公衆栄養活動の計画立案・実施・評価
- (9) 給食運営および物資や人材の資源の利用方法とそれに伴う栄養面・衛生面・安全面・経営面の総合的マネジメント
- (10) 専門基礎分野と専門分野を横断した栄養学および健康科学
- (11) 管理栄養士の活動の場での栄養評価・栄養管理を行うために必要な知識と技術および関連職種との連携
- (12) 管理栄養士に必要とされる専門基礎分野及び専門分野の知識および応用力

- (13) 実践的な活動の場での課題の発見と解決と卒後に栄養士・管理栄養士として必要な知識・技能
- (14) 栄養士・管理栄養士として、より深化した多角的な知識や複合的な技術
- (15) 教育現場において、他の教諭と協調して指導を行うことができる指導力やマネジメント能力も含め、栄養教諭に必要な栄養指導についての知識・技能
- (16) 卒業研究を通じた課題発見とその客観的分析と解決のために必要な知識・技能

3. 専門科目、教養科目の共通事項

(1) 授業の内容・方法

- ①ディプロマ・ポリシーの「汎用力」に示された学修成果(到達目標)については、それを計画的に修得できるよう、専門科目、教養科目の全科目が学修成果(到達目標)を分担し合い、授業内容・方法を工夫する。
- ②能動的学修、体験的学習、授業時間外学習を充実させるなど、大学教育の質的転換に向けた授業内容・方法を重視し、取り入れる。

(2) 初年次教育

多様な新入生全員が、学習意欲を湧き立たせ、自ら人間関係を築き、学修計画を立て、主体的な学びを实践できるように、オリエンテーションや「食物栄養科学基盤領域」も含めて初年次の配当科目、授業内容・方法を工夫する。

(3) キャリア教育

教養科目では、職業生活等で評価される能力を培うための科目を置き、食・栄養・健康にかかわる職業の能力を高めるために4年次に「実践演習」を置き、それに適した科目を置く。

(4) 資格科目

管理栄養士国家試験受験資格を取得するための科目の他に栄養士免許、栄養教諭1種免許、フードスペシャリスト資格認定試験受験資格、食品衛生管理者・監視員、司書免許を取得するための科目を設定する。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

○学科教育の特色と育成する人材像

食物栄養学科では、食・栄養・健康の分野に関する専門的知識・技術のみならず、必要な倫理観及び問題解決能力の備わった管理栄養士を育成することを目指します。本学科では、地域と提携した主体的・対話的学習（アクティブラーニング）を授業に取り入れており、学生の実践力を育むことで、食・栄養と健康に関する専門家として地域社会の発展に貢献できる人材を育てています。

このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。

○入学者に求める能力・資質は何か

- 高等学校教育全科、その中でも国語・英語・理科・数学・情報などについての基礎的な知識・技能を修得していること
- 自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること
- 自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること
- 食・栄養・健康を学ぶ意欲と情熱を有していること

○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか

- 国語、英語、理科、数学、情報に関する知識・技能の力と、それらを活用して食・栄養・健康に関連する現象を思考・判断・表現する力を、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 食・栄養・健康を学ぶ意欲と情熱を、各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。

各選抜区分で次のとおり「学力の 3 要素」を評価します。					
区 分	選抜方法	知識・技能	思考力・判 断 力・表現力	主体性を持 って 多様な人々 と 協働して学 ぶ態度	食・栄養・健 康を学ぶ意 欲と情熱
学 校 推 薦 型 選 抜	指定校推薦				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○	○	○	○
	推薦 1 期・2 期				
	小論文	○	○		○
	面接		○	○	○

	調査書	○		○	○
	自己調査書	○	○	○	○
総合型選抜	総合型選抜 1 期・2 期				
	課題	○	○		○
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	エントリーシート		○	○	○
一般選抜	A日程（1・2）				
	学力審査	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○	○	○	○
	B日程				
	学力審査	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○	○	○	○
	C日程				
	小論文	○	○		○
	面接		○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○	○	○	○
	D日程				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○	○	○	○
	共通テスト利用 1 期・2 期・3 期				
	大学入学共通テスト	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○	○	○	○

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・学修成果の目標）

発酵食品学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（食物バイオ学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。
- (2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。
- (3) 人間の探求、現代社会の理解、科学技術と環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や運動と健康、英語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

＜社会的意義＞発酵食品学等のバイオサイエンスのもつ社会的な意義や、バイオサイエンスを学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞発酵食品学等のバイオサイエンスの専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に研究開発及び衛生管理の能力を身につけている。

- (1) 発酵食品学等のバイオサイエンスを学ぶための基礎スキルを身につけている。
- (2) 化学の基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (3) バイオサイエンスの基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (4) バイオテクノロジーの基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (5) 食についての基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (6) 食の安全の基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (7) 発酵と食品に関する専門的な知識を身につけ、発酵食品に関する製造の技術を身につけている。
- (8) 生活環境から地球環境の保全に関して微生物を活用できる知識を身につけ、その活用を図る能力を身につけている。

- (9) バイオテクノロジーについての知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- ⑩ 発酵食品の製造や経営に関する知識を身につけ、これを応用できる能力を身につけている。
- ⑪ 食品の生産、流通、経営に関する知識を身につけ、発酵食品を加工する技術を身につけている。(食品流通コースを選択した学生のみ)
- ⑫ 香粧品や食品の香りに関する知識を身につけ、これらに関する実験の技能を身につけている。(食品香料コースを選択した学生のみ)
- ⑬ 就職活動に必要な能力、及び校外実習を通じ自身の進路について理解を深め、将来の目標をたてる能力を身につけている。

3. 汎用力(社会で活用できる汎用性のある能力)

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

発酵食品学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果(到達目標)を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果(到達目標)を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基

本とする。必ず学習すべき内容を扱う科目は必修とし、科目の内容に応じて講義、演習、実験、実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養科目

ディプロマ・ポリシーの「教養」に示された学修成果（到達目標）に対応して、以下の科目区分と科目を置く。

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力など基礎的素養を培うために必要な初年次教育を行い、本学の建学の精神、教育方針等を学び、学生の学習意欲を高めるため、1年次に科目区分「食物栄養科学基盤領域」を置き、その内容に適した科目を置く。
- (2) 特定の主題について、一つの分野に偏らずに、多角的、総合的、複合的に思考する能力を養うため科目区分「地域社会総合領域」を置き、それに適した科目を置く。
- (3) 人間の探求、現代社会の理解、科学技術と環境の理解に必要な教養を身につけ、また、情報処理、運動と健康、英語のリテラシーを身につけるための科目区分を設け、それぞれその内容に適した科目を置く。

2. 専門科目

ディプロマ・ポリシーの「専門力」に示された学修成果（到達目標）に対応して、以下の科目区分を置き、それぞれの科目区分の要請する内容を偏りなく包含する諸科目を設定する。また、さらに専門性を高めるため「発酵食品コース」、「食品流通コース」、「食品香料コース」の自由選択コース制をとる。また、各自の希望に応じた自由選択科目の科目区分として(14)～(16)を置く。なお、発酵食品学等のバイオサイエンスを学修することの社会的意義に関しては教養科目の「基礎演習」で扱い、職業生活で評価される能力に関しては全ての専門科目で分担して扱う。

- (1) バイオサイエンスの基礎
- (2) 発酵の基礎
- (3) 食の流通の基礎
- (4) 香りの基礎
- (5) フードサイエンスの基礎
- (6) 健康の基礎
- (7) バイオテクノロジー
- (8) 微生物と食品
- (9) 微生物と環境
- (10) 食品衛生と品質管理

- (11) 食品流通と経済
- (12) 食と香り
- (13) 総合演習
- (14) 臨地実習
- (15) 教員免許取得関連科目
- (16) 地域社会連携
- (17) 卒業論文関連科目

3. 専門科目、教養科目の共通事項

(1) 授業の内容・方法

- ①ディプロマ・ポリシーの「汎用力」に示された学修成果（到達目標）については、それを計画的に身につけることができるよう、専門科目、教養科目の全科目が学修成果（到達目標）を分担し合い、授業内容・方法を工夫する。
- ②能動的学修、体験的学習、授業時間外学習を充実させるなど、大学教育の質的転換に向けた授業内容・方法を重視し、取り入れる。

(2) 初年次教育

多様な新入生全員が、学習意欲を沸き立たせ、自ら人間関係を築き、学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように、オリエンテーションや発酵食品初年次教育も含めて初年次の配当科目、授業内容・方法を工夫する。

(3) キャリア教育

教養科目では、職業生活等で評価される能力を培うための科目を置き、専門科目では発酵食品学等のバイオサイエンスにかかわる職業の能力を高めるための科目を置く。

(4) 資格科目

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格、フードサイエンティスト資格を取得するための科目の他に中学校教諭 1 種免許（理科）、高等学校教諭 1 種免許（理科）、学芸員、司書・司書教諭、バイオ技術者を取得するための科目を設定する。

(5) 学修成果（到達目標）の達成度の評価とカリキュラムの改善

教員による達成度評価、学生自身による達成度評価のほか、卒業生調査などによって社会からの外部評価を適宜加え、カリキュラム全体の達成度評価と課題の明確化、改善案の策定などを行う。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

○学科教育の特色と育成する人材像

発酵食品学科には「発酵食品コース」、「食品流通コース」、「食品香料コース」の3つのコースがあり、それぞれ、醸造発酵学、食品流通、食品香料の分野についての基礎的・専門的

知識を修得します。本学科は、発酵食品を含む新たな食の開発やバイオサイエンスの学修に向けての強い意欲と科学的探究心をもった、地域社会や国際社会で人々の「食とくらし」を支える人材の育成を目指します。

このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。

○入学者に求める能力・資質は何か

- 高等学校で修得する理科と数学の基礎的な知識・技能を有していること
- 自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること
- 自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること
- 「食とくらし」やバイオサイエンスへの深い関心を有していること

○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか

- 理科と数学の知識・技能を基盤とし、それを活用して他者と課題解決に取り組むことができる思考力、判断力、表現力を、各選抜区分における学力審査、小論文、面接、口頭試問、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 主体的に学び、他者と協力して学問探究に臨む態度と学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 「食とくらし」やバイオサイエンスへの深い関心を、各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により評価し、その結果を合否判定に用います。

各選抜区分で次のとおり「学力の 3 要素」を評価します。					
区分	選抜方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	『食とくらし』やバイオサイエンスへの深い関心
学校推薦型	指定校推薦				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○

	自己調査書		○	○	○
	推薦 1 期・2 期				
	小論文	○	○	○	○
	面接	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	スポーツ・文化推薦				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	推薦書・自己申告書		○	○	○
総合型選抜	総合型選抜 1 期・2 期				
	課題	○	○		○
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	エントリーシート		○	○	○
一般選抜	A 日程（1・2）				
	学力審査	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	B 日程				
	学力審査	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	C 日程				
	小論文	○	○		○
	面接	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○
	D 日程				
	口頭試問	○	○	○	○
	調査書	○		○	○

	自己調査書		○	○	○
	共通テスト利用1期・2期・3期				
	大学入学共通テスト	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書		○	○	○

国際経営学部
国際経営学科

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・学修成果の目標）

国際経営学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（経営学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。
- (2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。
- (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

＜社会的意義＞経営学のもつ社会的な意義や、経営学を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞経営学の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に経営管理及び情報処理の能力を身につけている。

- (1) 経営学についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

- (2) 経済学についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。
- (3) 会計学についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。
- (4) 観光・地域経営についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。
- (5) 経営に関連した法律についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。
- (6) 経営に関連した国際関係の基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。
- (7) 経営に関連した情報システムについての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際経営学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果の目標（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果の目標（到達目標）を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基本とする。必ず学習すべき内容を扱う科目は必修とし、科目の内容に応じて講義＋アクティブラーニングの構成により、理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態

等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養科目

ディプロマ・ポリシーの「教養」に示された学修成果の目標（到達目標）に対応して、以下の科目区分と科目を置く

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力など基礎的素養を培うために必要な導入教育を行い、本学の建学の精神、教育方針等を学び、学生の学習意欲を高めるため、1年次に「基礎ゼミ」を置き、その内容に適した科目を置く。
- (2) 特定の主題について、一つの専門分野に偏らずに、多角的、総合的、複合的に思考する能力を養うため科目区分「学際科目」を置き、それに適した科目を置く。
- (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な教養を身につけ、情報処理や英語のリテラシーを身につけるための科目区分を設け、それぞれその内容に適した科目を置く。

2. 専門科目

ディプロマ・ポリシーの「専門力」に示された学修成果の目標（到達目標）に対応して、以下の科目区分を置き、それぞれの科目区分の要請する内容を偏りなく包含する諸科目を設定する。なお、経営学を学修することの社会的意義に関しては教養科目の「導入演習」「基礎演習」で扱い、職業生活で評価される能力に関しては全ての専門科目で分担して扱う。

(1) 発展演習・専門演習・卒業演習

教養科目の「導入演習」「基礎演習」と一貫する、2年次以降の少人数ゼミの科目区分を置く。

- ①専門の基礎的な知識・能力を高めるための科目として2年次に「発展演習」を置く。
- ②専門の知識や考え方を深めるとともに、企画力、論理力、発表能力などを高め、卒業演習につなげるための科目として3年次に「専門演習」を置く。
- ③テーマを絞って専門の学修を深め、4年間の集大成となる卒業論文（研究）を完成させるための科目として「卒業演習」を置く。

(2) 専門関連科目

専門の学修に関連した人文系、社会科学系、言語系の概論的な知識、技能を修得するための科目と科目区分「専門関連科目」を置く。

(3) 学科専門科目

- ①専門を学習するうえでの共通的・基礎的な内容を修得するための科目と科目区分

「共通基礎科目」を置く。

②専門分野の知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけるための科目と科目区分「経営学分野」「経済学分野」「会計学分野」「観光・地域経営分野」「法律分野」「国際関係分野」「情報分野」「地域創生プロジェクト」「キャリアアップ科目」を置く。

③4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、論文を作成するための科目と科目区分「卒業論文」を置く。

3. 専門科目、教養科目の共通事項

(1) 授業の内容・方法

①ディプロマ・ポリシーの「汎用力」に示された学修成果の目標（到達目標）については、それを計画的に身につけることができるよう、専門科目、教養科目の全科目が学修成果の目標（到達目標）を分担し合い、授業内容・方法を工夫する。

②能動的学修、体験的学習、授業時間外学習を充実させるなど、大学教育の質的転換に向けた授業内容・方法を重視し、取り入れる。

(2) 初年次教育

多様な新入生全員が、学習意欲を沸き立たせ、自ら人間関係を築き、学習計画を立て、主体的な学びを実践できるように、第2次オリエンテーションや導入演習、基礎演習も含めて初年次の配当科目、授業内容・方法を工夫する。

(3) キャリア教育

職業現場に積極的に出向いて、研修・見学を行ったり、地元企業・組織の経営者や幹部を大学に招いてセミナーを行ったりするなど実務体験を重視した教育に取り組む。

(4) 公務員試験対策科目・資格試験対策科目

「公務員試験」：民法、ミクロ経済学特別講義、マクロ経済学特別講義、公務員実務演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶなど

「リテール・マーケティング（販売士）（3・2級）」：マーケティング論、マーケティング演習など

「日商簿記（3・2級）」：簿記Ⅰ・Ⅱ、簿記キャリアアップⅠ・Ⅱなど

「税理士試験（簿記論・財務諸表論）」：簿記Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、簿記キャリアアップⅢなど

「国内旅行業務取扱管理者」：観光キャリアアップⅠ（旅行業務）、観光キャリアアップⅡ（旅行地理）、旅行業務論、旅行地理論など

「IT パスポート」：情報処理総合演習など

「ファイナンシャル・プランナー」：ファイナンスリテラシー演習など

「秘書検定（3・2級）」：ビジネス実務演習Ⅰ・Ⅱなど

(5) 学修成果の目標（到達目標）の達成度の評価

経営管理、会計・税務、観光・地域経営の各分野において経営学を学ぶための基本的スキルを修得し、国際言語能力、国際社会における多文化を理解し得る能力、国際的な企業・行政・文化組織で活躍できる経営管理能力、情報処理能力、さらには倫理性や適応能力を備え、他者と協力して課題解決に取り組むことができる能力を身につけている。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

○学科教育の特色と育成する人材像

国際経営学科には「国際経営コース」、「会計・税理士コース」、「観光・地域経営コース」の3つのコースがあり、それぞれ経営、会計・税務、観光・地域経営分野について、経営管理能力、情報処理能力を含む専門的知識を修得します。そしてこれらを活用し地域の発展のために貢献できる人材を育成することを教育目標とします。

このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。

○入学者に求める能力・資質は何か

- 主に社会科学系の科目において、グローバルな視点から地域を考えるための基礎的な知識・技能を修得していること
- 目まぐるしい時代の変化に対応するために、自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること
- 自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること
- 経営、会計・税務、観光・地域経営に対する関心と意欲を有していること

○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか

- 公民、国語、情報、商業に属する科目に関する基礎知識を活用して、課題を発見し解決することができる思考力・判断力・表現力を、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
- 主体的に学び、他者と協働して学問探究に臨む態度と学校内外の活動（部活やボランティア、地方公共団体や地域の企業・団体と連携し活動した経験など）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における取得資格・免許、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。

●経営、会計・税務、観光・地域経営に対する関心と意欲を各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。

各選抜区分で次のとおり「学力の三要素」を評価します。					
区 分	選抜方法	知識・技能	思考力・ 判断 力・表現 力	主体性を持 って多様な 人々と協働 して学ぶ態 度	経営、会 計・税務、 観光・地 域経営に 対する関 心と意欲
学 校 推 薦 型 選 抜	指定校推薦				
	口頭試問（面接の内容も含む）	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○（資格・検定等）	○	○	○
	推薦１期・２期				
	小論文	○	○		
	面接		○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○（資格・検定等）	○	○	○
	スポーツ・文化推薦				
	口頭試問（面接の内容も含む）	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○（資格・検定等）	○	○	○
	推薦書・自己申告書	○	○	○	○
	総合型選抜１期・２期				
総 合 型 選 抜	課題	○	○		○
	口頭試問（面接の内容も含む）	○	○	○	○
	調査書	○		○	○

	エントリーシート	○	○	○	○
Ⅰ 選 抜	A日程（１・２）				
	学力審査	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○（資格・検定等）	○	○	○
	B日程				
	学力審査	○	○		
	調査書	○	○	○	○
	自己調査書	○（資格・検定等）	○	○	○
	C日程				
	小論文	○	○		○
	面接		○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○（資格・検定等）	○	○	○
	D日程				
	口頭試問（面接の内容も含む）	○	○	○	○
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○（資格・検定等）	○	○	○
	共通テスト利用１期・２期・３期				
	大学入学共通テスト	○	○		
	調査書	○		○	○
	自己調査書	○（資格・検定等）	○	○	○

看護学部
看護学科

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・学習成果の目標）

生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性と倫理観、確かな看護の専門的知識・実践力を有し、時代や社会の変化に伴う地域社会の健康課題について、多職種連携のもと自律的に行動できる人材、あわせて、自己研鑽を続け、看護学の発展に寄与できる人材を養成する。

看護・医療・保健・福祉に関する学問を修め、教養及び専門に関する所定の単位を修得し、以下に掲げた能力を身につけたと認められる者に学位（看護学）を授与する。

DP1. 全人的な人間理解と尊厳及び権利擁護の態度と探求心をもち、広い視野で物事を多角的にとらえる姿勢が身についている。

DP2. 看護活動に必要なコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーが身についている。

DP3. 様々な健康レベルにある対象の生活、健康状態を判断する専門的知識が身についている。

DP4. 看護の本質を理解し、その人らしい生活を支援する援助的人間関係に基づいた看護実践力が身についている。

DP5. チーム医療において多職種と連携・協働して、地域特性に応じた看護を実践する能力が身についている。

DP6. 看護専門職としての役割を理解し、グローバルな観点で専門性を発展させていこうとする姿勢及び自己研鑽を続け、看護学の発展に寄与しようとする姿勢が身についている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げる6つの能力を着実に修得させるために、教養教育、専門教育に関する授業科目を体系的・階層的に配置し、講義、演習、実習科目を適切に組み合わせた教育課程を編成する。学生が自立して自主的に学ぶ学修方法を身につけることを目標に、理論的かつ体験的に学修できるよう、下記のカリキュラム・ポリシーのもとに編成する。

CP1. 倫理観の醸成や人間愛への素地、論理的思考力を養うために、人間理解に関する科目と、リベラルアーツ関連科目を配置する。（DP1に対応）

CP2. 看護実践に必要な基礎的能力と、現代社会で生きるために必要な情報リテラシー等の基礎的能力を修得するために、教養科目を配置する。（DP2に対応）

CP3. 専門基礎科目に、対象を生活者として理解できるように、〔生物学的人間理解〕〔疾病と回復過程の理解〕〔健康支援と社会保障制度〕に関する科目を配置する。（DP3に対応）

CP4. 地域で生活する個人・家族・集団の多様な価値観を尊重し、各看護学領域に特有な対象理解と健康課題をとらえる力、課題解決のための援助理論と方法を学ぶ科目を配置する（DP4に対応）

CP5. 各看護学領域は、対象の状況に応じた看護実践力を修得するため、リフレクションにより知識・技術・態度を統合して学ぶシミュレーション教育を基本とした演習科目を配置する。（DP4に対応）

CP6. 各看護学領域は、学内演習の成果を多様な場で活用し、発展的・段階的に看護実践力を修得するために実習科目を配置する。（DP4に対応）

CP7. 地域で生活する個人・集団の健康課題を分析・抽出し、健康の維持増進のための継続的支援、協働、組織活動及び評価を実践する科目を配置する。（DP5に対応）

CP8. 対象の多様化、社会の変化に対応できる国際的視点を養い、看護を探究する思考や方法、自己の専門職としての成長と発展につながる科目を配置する。（DP6に対応）

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学部では、教育目的や教育目標を理解し、看護職を志向する明確な意志を持った学生を選抜する。このため、次のアドミッション・ポリシーを定め、入学者選抜を行う。

AP1. 生命や人権を大切にし、探求心と将来にわたり学び続ける姿勢を有していること

AP2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、ものごとを論理的に考える資質を有していること

AP3. 将来、看護師や保健師として地域の人々の健康のために役立ちたいという強い意志を有していること

AP4. 他人の意見を尊重し、他の職種の人とともに役割を果たす態度を有していること

AP5. 自分の考えを持ち、主体的に行動する態度を有していること

なお、高等学校までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのかについては、以下を基本方針とする。

- ① 国語、英語、理科、数学は、看護実践に必要なコミュニケーション能力（国語、英語）、科学的理解（理科）、計算力（数学）に関する知識・技能の力と、それらを活用して健康に関連する現象を思考・判断・表現する力を、各選抜区分

における学力審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシートにより測定・評価し、その結果を合否判定に用いる。

- ② 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と学校内外の活動（部活動やボランティア活動など）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシートにより判定・評価し、その結果を合否判定に用いる。
- ③ 保健・医療・福祉を学ぶ意欲と情熱を、各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題を基に評価し、その結果を合否判定に用いる。

選抜種	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	AP5
		主体性	知識・思考力	看護師への志向	協調性	判断力・表現力
一般選抜（別府大学個別選抜）	学力試験	—	◎	—	—	—
	調査書	○	○	—	—	○
	自己調査書	—	—	○	○	—
一般選抜（共通テスト利用）	共通テスト	—	◎	—	—	—
	調査書	○	○	—	—	○
	自己調査書	—	—	○	○	—
学校推薦型選抜	口頭試問（面接含む）または小論文	—	○	—	—	—
	調査書	○	◎	—	—	○
	自己調査書	—	—	○	○	—
総合型選抜	小論文	—	○	—	—	—
	面接	◎	—	◎	◎	◎
	調査書	○	◎	—	—	○
	エントリーシート	—	—	○	○	—

*アドミッション・ポリシーと、より関連性が高い方を◎としています。